

**令和元年度
野田市立せきやど図書館及び野田市関宿コミュニティ会館指定管理者
管理運営状況調書**

担当課 興風図書館

| 評価基準 | 評価項目 | 指定管理者 自己評価 | 担当課評価 | 特記事項 |
|-------------------------------------|-------------------------|---------------|-------|------|
| 利用者の平等利用が確保されること | ①平等利用確保への取組 | B | B | |
| | ②児童・障がい者・高齢者への配慮 | B | B | |
| 施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること | ①施設の利用促進に向けた取組 | B | B | |
| | ②地域の特性を活かした取組 | B | B | |
| | ③児童・青少年層への読書普及のための取組 | B | B | |
| | ④レファレンスサービス充実のための取組 | B | B | |
| | ⑤サービス向上のための取組状況 | B | B | |
| | ⑥自主事業の取組 | B | B | |
| 個人情報の適切な保護が図られていること | ①個人情報保護のための取組 | B | B | |
| 緊急時の危機管理体制が確立されていること | ①施設の安全管理、緊急時の危機管理のための取組 | B | B | |
| | ②利用者の要望及び苦情への対応の取組 | B | B | |
| 現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること | ①現金の取扱い等の適切な経理処理についての取組 | B | B | |
| 管理経費の縮減が図られるものであること | ①指定管理に係る経費の収支見込について | B | B | |
| | ②管理経費縮減のための取組 | B | B | |
| 地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際し、地元業者へ配慮すること | ①地元住民の雇用及び地元業者への配慮 | B | B | |
| 事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること | ①人員配置について | B | B | |
| | ②職員の指揮監督・管理体制について | B | B | |
| | ③人材育成の取組 | B | B | |

総合所見

図書館の利用状況は、各種の利用促進に向けた取組や児童・青少年層への読書普及のための取組を通じて利用促進に努めましたが、12月末時点における前年同月比で、個人貸出点数は-5,903点（約7.5%）の減となりました。

また、個人利用登録者数も、12月末時点の前年同月比で-193人（約3.3%）と減少しています。

長く続いている出版不況に見られるように、インターネットや携帯端末、電子書籍等の普及による情報取得手段（メディア利用形態）の多様化の影響により、図書館の貸出点数及び登録者数の減少は野田市に限らず全国的な傾向にあり、それに加えて閑宿地域の人口も減少傾向であるため、今後も引き続き各種の利用促進に向けた取組や読書普及事業を実施することを通じて利用促進に努めてもらいたい。

コミュニティ会館の利用状況は、12月末時点における前年との比較で、利用件数が53件（約6.0%）の増、利用人数も95人（約0.9%）の微増となりました。

図書館と同様にエリア人口が減少している影響を受けてはいるものの、いちいのホール空調設備改修の影響で平成30年4月に和室の利用が減少したため、令和元年度は件数及び利用人数ともに増加となりました。

今後も引き続き各種の取組などを通じて更なる利用促進に努めてもらいたい。

各評価項目については、指定管理者はすべての評価項目についてBと自己評価しています。

利用促進に向けた事業や、児童・青少年層への読書普及のための事業など、南図書館及び北図書館ともに多様な各種の事業を実施しており、未実施の事業や代替で実施した事業もなく、おおむね業務計画書のとおり適切に実施されていることから、担当課としてすべての評価項目についてBと評価しました。

人員配置、研修、施設の保守点検については、おおむね業務計画書のとおり実施されており、仕様書の水準を満たしていると認められます。

11月27日に担当課による施設点検を行い、せきやど図書館の利用者用複写機及び閑宿コミュニティ会館小ホール舞台設備機器操作卓の不具合を確認し、複写機については次年度当初予算による機器更新、操作卓については本年度予算（予備費対応）による交換修繕を行う予定です。

経費の収支見込は、スタッフの社会保険料が当初の見込みより増加し、人件費の支出が増えたためですが、仕様書の要求水準を満たす業務を適正に行うためであることから、支出の超過はやむをえないと考えます。

指定管理者である株式会社図書館流通センターは、直近の貸借対照表及び損益計算書により経営が安定しているものと評価します。

総合所見としては、図書館の利用が減少傾向にあるものの、施設の利用促進に向けた取組は数多く行われており、全般的にはおおむね適正に管理運営が行われていると評価します。